

松下幸之助記念財団 研究助成  
研究報告

【氏名】大村華子

【所属】(助成決定時)京都大学大学院法学研究科法政論専攻 博士後期課程

【研究題目】政党の政策コミットメントの信頼性—OECD 諸国の政策公約と選挙結果についてのパネル・データ分析

【研究の目的】

本研究の目的は、OECD 諸国の有権者が政党の政策コミットメントの「信頼性(credibility)」を評価しながら、投票政党を選択してきたのかどうかを明らかにすることであった。そして信頼性のある政策コミットメントを提示する政党ほど、選挙でのパフォーマンスは良好であったのか、つまり政権与党になる機会に恵まれやすかったのかを分析することも併せて目的としていた。そして、本研究の学術的意義として、(i)政党の信頼性が選挙結果に影響する程度を、パネル・データ分析によって空間的にも、時間的にも広範に分析しようとする、(ii)従来の選挙分析においては、各国の政治学者が業績評価などについて経済状態と選挙結果の関係に焦点を当て分析することが主流であったが、政策の信頼性をどのように評価しているのかという点を直接的に分析しようとするこの 2 点に見出すことができるものであった。

【研究の内容・方法】

本研究では、OECD 諸国の政党の政策の信頼性に対する有権者の集積的な評価を分析していく。そこで、まずは分析対象とする政策分野の特定が必要となる。修士論文においては、なぜ日本社会党が長期にわたって政権を獲得することができなかったのかを説明するという主要な関心に基づいて、主に「福祉政策における信頼性の高いコミットメントの欠如」に注目した。これに対して、本研究においては、注目する政策分野と分析する対象の拡張を図った。有権者がとりわけ関心を有していると考えられる政策領域を特定するに際して有用と考えられる知見としては、国際関係論における紛争解決理論や、防衛経済学において提出されている「限られた資源を福祉(民生)と防衛に配分せねばならない政府の意思決定」に関するものが挙げられる。有権者は「大砲か、バターか(Guns vs Butter Problem)」の考量に根ざして、政権等選択を行っていることが同分野の既存理論によって示唆されている。この知見を援用することで、「福祉政策と防衛政策における信頼性のある政策コミットメント」を政党が提出してきたのかどうか注目した分析を行った。

そして、分析単位を横断面については各国の政党、時間については選挙年とするパネル・データ分析を展開した。従属変数には、選挙でのパフォーマンスの程度を表す得票率を、独立変数には政策の信頼性を表す指標を主要なものとして採用した。

またこうした分析に限らず、報告者は福祉と防衛への資源の分配に政党のコミットメントや世論が及ぼした影響についても追加的に分析した。それに際しては、福祉政策と防衛政策に関する政党の力点を比較対照する指標として、「The Guns-Butter Ratio(大砲バター比)」を作成し、それが政党のコミットメント、世論、国内の社会経済状態、国際関係によってどのように規定されるのかを包括的に分析した。

【結論・考察】

分析の結果、福祉と防衛に関する信頼性の高い政策コミットメントが、政党の選挙でのパフォーマンスを高めることが明らかになった。具体的には、福祉政策と防衛政策に関して、過去の実績の裏付けを背景に、有権者からの高い信頼性を維持している政党ほど、国政選挙において高い得票率が期待できることが示される結果を得た。

また追加的な分析からも、世論が政党の福祉政策と防衛政策を条件づけることで、それらが福祉と防衛の分配比率を規定することが明らかになっている。すなわち、世論によって政党の政策実行が規定され、その程度をもとに有権者は政党のパフォーマンスを判断し、支持態度や投票選択を決定していることが明らかになった。